

# 「くまの木」ヒトとムシの楽園プロジェクト

会報ムシプロ17号

2018年8月



カブトムシ (コガネムシ科)

## 目次

- 1. 7月活動報告 . . . . . 2
- 2. ムシプロだより . . . . . 5
- 3. 自然の楽しみ方 (夏) . . . . . 6
- 4. 事務局より . . . . . 7
- 今月の表紙 . . . . . 7

## 1. 7月14日（土）15日（日）の活動報告

2017年第三回活動を7月14日（土）15日（日）に行いました。

スタッフ4人を含めて21人が参加しました。

「花壇及びビオトープの整備」と「雑木林のムシ」を観察しました。

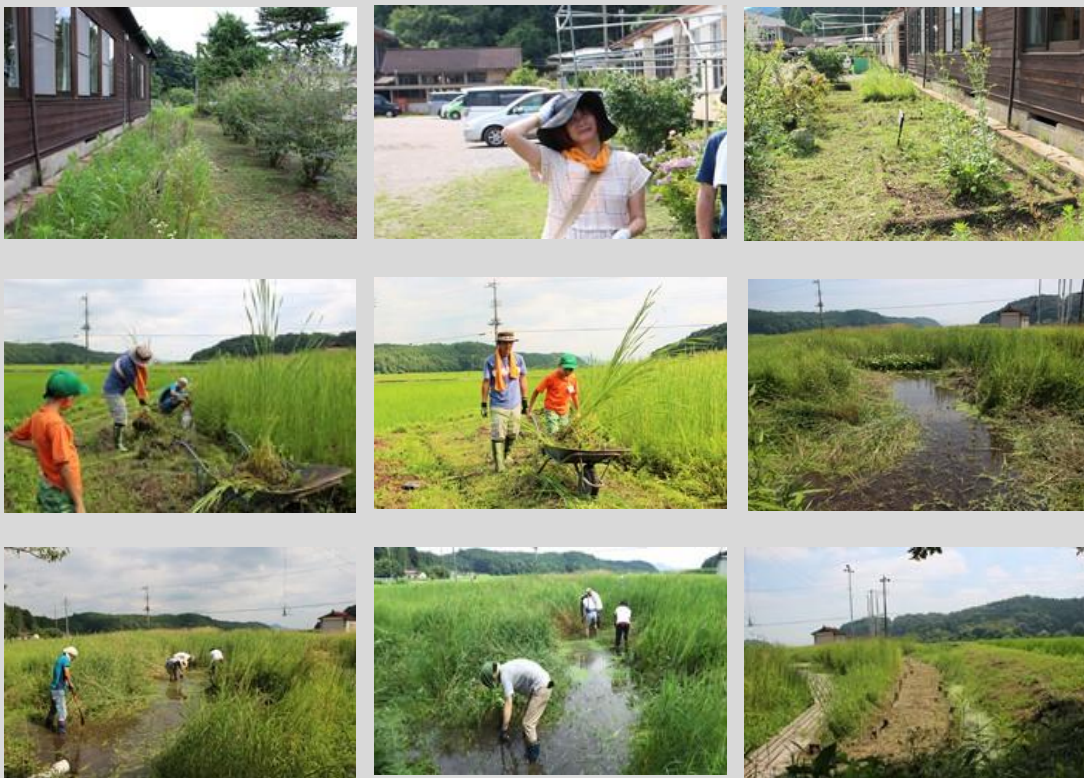
### ■ 花壇及びビオトープの整備

花壇及び第二ビオトープの雑草取りを行いました。雑草取りは、活動のたびに実施しています。植物の成長の早さに驚かされます。

当日は、高温注意報が出されていたこともあり、休憩と水分補給、体調管理に気を使いながら作業となりました。作業を始めて数分で玉のような汗が流れ、Tシャツは汗で重くなりました。このような状況の中でも丁寧に雑草をとり、予定していた作業をこなしました。雑草に覆われていた花壇及びビオトープは、まるで床屋にいったように綺麗になりました。

作業後の花壇とビオトープを眺めて全員、きつい作業をこなした充実感で溢れていました。

花壇及びビオトープ整備の様子



## ■ 雑木林のムシ観察

雨が少ないせいか、今年は樹液の出がよくありません。そこで、バナナトラップで樹液を好むムシを呼ぶことにしました。用意したものは、バナナ、焼酎、すしのこなどです。各自がそれぞれのレシピで作りました。

夜の観察の前に、パーキングエリアのコナラ、ヤナギの木に行き、カブトムシ、ノコギリクワガタ、コクワガタ、カナブンを観察、採集しました。大物の登場にみんな大興奮です。やはりカブトムシ、クワガタは今も子供たちのアイドルです。

宿泊する庄屋についてから採集したムシのまとめとカナブンで遊びました、カナブンの前胸にひもを付けて飛びかたを観察するものです。これも大いに盛り上がりました。雑木林では、バナナトラップとともにライトトラップも仕掛けて、雑木林のムシを観察しました。

盛りだくさんの内容で、夏休みのムシ遊びの参考になったと思います。

雑木林のムシ観察の様子

バナナトラップ作成→PA→ヤナギの木→庄屋→カナブンで遊ぶ→雑木林



## ■ 今回のナイスショット

採集した自慢のムシを持って記念撮影中にムシが飛んで脱走しました。全員が、「あっ！」となったところを収めることができました。各人の自然な表情が良く出ている1枚となりました。



## ■ 雑木林で見つけた「恥ずかしがりやのムシ」たち

活動後、静かになった雑木林で見つけたムシたちです。



ゴイシジミ



ウラナミアカシジミ



ブルーカナブン



トビナナフシ

14日・15日の画像は、以下のアドレスをクリックしてパスワードを入力してください。

<https://opa.cig2.imagegateway.net/s/cp/Cpiw4SBBz3n>

パスワード：2018071415

## 2. ムシプロだより

今月からの新企画／投稿画像です。



**ミヤマモンキチョウ 吉田 義秀**

長野県東御市の池の平湿原で撮影した高山蝶です。通常のモンキチョウとの違いは、触角を含めた頭部と足、それに翅の周りがピンクになっています。産地は標高 2000mでこの猛暑でも過ごしやすく、駐車場から 20～30 分歩いて観察できます。種として採集禁止になっています。



**オオムラサキ 西野 孝法**

千葉県千葉市若葉区で撮影しました。ベンチに腰掛けて食事をしていたら、大きな影がクヌギの木に飛んできたのが見えました。カメラを手に取って近づくとオオムラサキのオスでした。



**ゴバの仲間（幼虫） 熊谷 義昭**

千葉県千葉市大草谷津田で撮影しました。この種は、脱皮した頭部の殻を積み上げる習性を持っています。一番下が生きた頭部でその上が殻（4 個）です。下の画像は、2 年前に撮影したリンゴゴバ（幼虫）です。



皆様からの投稿をお待ちしております。題材は自由です。  
どんどん送って下さい。お待ちしております。

### 3. 自然の楽しみ方（夏）

#### ● ムシたちの夏（夏空に舞う②）；タマムシ

タマムシを初めて見たのは、約50年前の夏、福井県の叔母の家であった。いつものように網をもち外に出ると頭のとれた死がいを持った。あまりの美しさに目を奪われた。

タマムシは、木の高いところを飛び、見た目以上に速く飛ぶので採集するのが難しいムシの一つだ。採ろうと夢中になって網を振り回しながら追いかけて、土手に突っ込んだり、道から転げ落ちたこともある（笑）。漫画のような出来事だったので、全身について草を払うこともなく一人で大笑いした。とても良い思い出である。過去3回、エノキの周りを何十頭ものタマムシが乱舞しているのを見たことがある。エノキの側に立っていると体にぶつかってくるほどだった。この時は、あまりの数に目がくらみ、かえって網の柄がジャマで数頭しか採集できなかった。

現在、住んでいる家の周りにはエノキが多くありタマムシの観察に都合が良い。観察するには、目の高さぐらいまで枝がある木を探すことだ。このような木にタマムシが飛び回っていると交尾の様子、葉を食べる様子など観察が容易にできるし、採集も容易にできる。

メスが、エノキの葉の上に止まりじっとしていると、次から次へとオスが求愛に訪れる。中には、交尾中にもかかわらず別のオスがやってきて交尾を試みることもある。美しく優雅に飛んでいるように見えるタマムシは、子孫を残すために今日もメスを探して夏空に舞う。

（写真・文 西野 孝法）



飛び立つ瞬間を捉えました。



メスを求めてエノキの周りを飛ぶオス



メスを見つけるとすぐに求婚する。



※○の中に交尾を終えた別のオスが写っている。

## 4. 事務局より

- 会報の「表紙」と「自然の愉しみ方」で紹介した画像をイメージゲートウェイに登録しています。Wordに貼りつけてある画像より綺麗です、ご覧ください。

アドレスは以下のとおりです。パスワードは、必要ありません。

<https://opa.cig2.imagegateway.net/s/cp/DMCYuTBGLSE>

画像はダウンロードできます。

- 次回の活動は、9月22日（土）です。

2018年8月1日発行

発行： くまの木ヒトとムシの楽園プロジェクト

編集責任者： 西野 孝法

〒262-0026 千葉県 千葉市 花見川区瑞穂3-3-26

TEL: 090-9327-5606

Eメール：[harukan@ac.auone-net.jp](mailto:harukan@ac.auone-net.jp)

### 今月の表紙

#### カブトムシ（コガネムシ科）

雑木林のスター、樹液酒場の王者である。  
子供の頃、夏になるとひたすら採り続けた。  
一回に採れる数は、バケツ一杯、洗面器一杯と  
いった具合である。

飼育は、とてもお粗末で、今のようにプラスチックケースが普及していなかったので煎餅が入っていた金属製の入れ物に放り込んでいた。

エサは、キュウリが中心でたまにスイカの皮を与えていた。ある時、「昆虫博士の矢島稔」の本に長生きのコツとして「カブトムシはキュウリのみで生きるにあらず」、「オスを複数入れないこと」と書いてあった。これ以降、飼育は、オスメスのワンペアで飼育するようになった。夏が終わり飼育ケース（自作です）の中からたくさんの小さな幼虫が出てきたときの感動は、今でも忘れられない。心の中で「バンザイ＼(^o^)/」と叫んでいた。

カブトムシは、丈夫で飼育しやすい、繁殖に挑戦していただきたい。飼育では、昆虫ゼリーだけでなくたまに黒糖、果物などを与えよう。

「カブトムシは、昆虫ゼリーのみで生きるにあらず」である。



(写真・文 西野 孝法)